

第 78 回大腸癌研究会（当番世話人：亀岡信悟教授）

『内視鏡摘除後大腸 SM 癌の転移・再発に関する多施設共同研究』プロジェクト研究・委員会議事録

日時：2013（平成 25）年 1 月 17 日（木），14：00～15：00

場所：都市センターホテル 6F，603 号室

出席者（順不同）：斉藤裕輔（市立旭川病院，委員長），石川秀樹（京都府立医科大学分子標的

癌予防医学），五十嵐正広，浦上尚之（癌研有明病院），飯石浩康，竹内洋司，東野晃治（大阪府立成人病センター）小林清典（北里大学東病院），井上雄志，中川了輪（東京女子医大），山野泰穂（秋田赤十字病院），鶴田 修，長田修一郎，野田哲裕（久留米大学），蔵原晃一（松山赤十字病院），斉藤 豊，松田尚久，中島 健（国立がん研究センター中央病院），池松弘朗（国立がん研究センター東病院），工藤進英，和田祥城，澤 将史，松平真悟，宮地英行，一政克朗（昭和大学横浜市北部病院），松田圭二（帝京大学），樫田博史（近畿大学），浦岡俊夫（慶応大学），佐野 寧（佐野病院），山口裕一郎，堀田欽一，今井健一郎（静岡県立がんセンター），斉藤彰一（東京慈恵会医科大学），堀松高博（京都大学），石黒めぐみ（東京医科歯科大学），須並英二（東京大学），永田信二（広島市立安佐市民病院），岡 志郎（広島大学）

議題「内視鏡摘除後大腸 SM 癌の転移・再発に関する多施設共同研究 のアンケート項目」について

■研究の目的・内容に関する説明（斉藤委員長）

- 1) 研究期間：2013 年 1 月～2015 年 1 月（2 年間）に修正
- 2) プロジェクト委員および出席者のメールアドレス記載
- 3) 研究・調査方法の説明（別紙にて、エクセルによる調査内容の案を提示）

■研究・調査方法に関する各プロジェクト委員からの主な意見（意見の順）

- ・ 今後、詳細な解析をする上で内視鏡摘除した SM 癌の総数を記載した方がよいのでは？ 追跡率についても記載を検討してはどうか？（石川先生）
- ・ 内視鏡摘除を施行していない初回外科的切除 SM 癌の再発例も対象に加えてはどうか？（井上先生）
- ・ 今回の目的からみて、対象は再発例のみで検討すればよいのではないか。（飯石先生）
- ・ 1991 年からの過去のカルテを全て調査することは困難である。この期間の全ての SM 癌を解析する意味があるかについても疑問である。（樫田先生）
- ・ 対象は再発してサルベージした症例に絞った方がよいのでは？ 再発した時点からの期間を

検討することが重要。(池松先生)。

- ・ 調査期間は2001年から2008年でよいのでは？(斉藤豊先生)
- ・ 初回診断のバイアスはどうするか。施設により内視鏡摘除の条件が異なっている可能性がある。初回から外科的切除したSM癌も対象に加えた方がよいのでは？(山口先生)
- ・ 内視鏡摘除単独群を対象に検討した方が目的が分かりやすいのでは？(池松先生、石川先生)
- ・ 使用した抗癌剤の内容も重要かもしれない(時代的に抗癌剤の種類が異なることは考慮する必要があるかもしれない)(宮地先生)
- ・ 局所再発例も検討に加えてはどうか？(樫田先生)
- ・ 再発症例に関しては病理を詳細に検討する(中央判定)ことも重要であるが、その際に標本が集まるのか？(鶴田先生)
- ・ 問題症例のみに関して、病理診断などの詳細を検討するために各施設にお願いすればよいのではないか。(斉藤委員長)
- ・ 多発例や進行癌合併例、他臓器癌合併例を対象から外したほうが良い？。(池松先生)

■調査内容(エクセル表)に関する追加項目

- ・ 一括/分割(樫田先生)
- ・ 脈管侵襲(ly, v)(浦岡先生)
- ・ 組織型、分化度(浦岡先生)
- ・ IDの取扱いについては各施設の状況に応じて(石川先生)
- ・ 治療日と最終生存確認日、死亡日(斉藤豊先生、石川先生)
- ・ 死因(石黒先生)
- ・ 再発形式の記載を項目毎に『あり/なし』での記載した方がよいのでは？(石黒先生)
- ・ 経過観察の理由(池松先生)
- ・ 再発病変の組織型(池松先生)

上記の意見を参考にして斉藤委員長が調査内容の最終案を作成し、後日メーリングリストにて各プロジェクト委員にファイルを配信し、改めて意見を求める方針となった。

■今後の予定

第1回(2013.1): アンケート内容の概要決定: 今後mailで調整

(2013.3): アンケート内容の最終決定

(2013.4): アンケート調査開始: 2014.3までの1年間

第2回(2013.7): 中間報告(第1回)&意見調整

第3回(2014.1): 中間報告(第2回): 問題症例の検討

第4回(2014.7): 最終結果の概要報告と執筆担当等の調整

第5回(2015.1): 最終報告、プロジェクト終了

■次回開催予定について

- 1) 調査内容の最終確認と再発調査に関する進捗情報を報告予定（2013年7月）。

以上

文責：広島大学・岡 志郎